

2023年8月4日

「気候市民会議つくば2023 アイデア募集」結果の概要

気候市民会議つくば実行委員会

2023年の6月から7月まで、つくば市内に在住・在勤・在学の方を対象に、「ゼロカーボンで住みよいつくば市」を実現するためのアイデアを広く募集しました。7月25日の〆切までに57件が集まりました。ありがとうございます。いただいたアイデア等は、別に実施中の「アイデア募集（夏休み特集）」とあわせて、第1回市民会議の資料等として活用します。なお、気候市民会議第1回目(9月3日)の後にもアイデア募集を行う予定です。

お題別の件数とAIで要約した内容の一端を共有いたします。AIの都合で表現されていないアイデア等もございますが、御了承ください。

- 1) 気候市民会議に参加するとしたら、どのようなことを話し合いたいと思いますか。(9件)
つくば市が太陽光等の発電施設をつくり、その電力を市内で消費する枠組みをつくること
市民レベルでゼロカーボンに取り組むことの必要性
地球環境がどうになってしまうのか
電気自動車の開発
ゴミ収集の短縮化や、ゴミの再利用
市民同士の対話や、市民が政策に参加することの重要性
- 2) 気候市民会議では、どのような情報が示されると良いと思いますか。(4件)
つくば3Eタスクフォースが公開している「グリーンホロニズムタウン」に関する情報
市内の大口各事業者の消費電力量と、太陽光や風力等による自家発電量の現状
市民1人当たりの二酸化炭素排出量やゴミの排出量
先入観を排除でき、科学的に正しい議論が可能となるような根拠
- 3) 「ゼロカーボンで住みよいつくば市」は、どのような姿だと思いますか。(2件)
市民が車を持たなくても生活に困らないような交通インフラや、自転車が走りやすい舗装が整備されている
電気エネルギー化した公共交通機関が充実し、個人の車両使用が制限されている
食品や消耗品の注文宅配制度が導入されている
- 4) 「ゼロカーボンで住みよいつくば市」を実現するために、どういう取り組みが市民（地域、事業者）に必要と思いますか。(7件)
自動車の使用を減らす都市整備と市民意識の醸成

農業用地を併設した住宅の提案、地元野菜を使用した食事の推進
テクノロジーの第一次産業への活用
森林や草地の保護、消費者の食料等生産や自然保護への関与
市民同士の対話と政策へのフィードバック
学校や公共建物の断熱リフォームや省エネ設備の設置
民間事業者の「省エネ最適化診断」の推進

5) 「ゼロカーボンで住みよいつくば市」を実現するために、どのような政策がつくば市に必要と思いますか。(27件)

つくば3Eフォーラムの次世代エネルギーシステムTFが策定した「つくばグリーンホロニズム構想」を実行し、ゼロカーボンに向かう「まち」の実現に向けた行動を、産官学、文系・理系の叡智を集めて実現させる。

つくば市内の各種研究所がタッグを組み、効率的なエネルギー利活用に向けたモデル構築を行う。

自家用車の使用低減が必要であり、そのために徒歩、自転車、二輪車の利用を推進する。車社会からの脱却を進め、自転車や超小型モビリティ等の新たなモビリティサービスの導入促進を図る。

公共施設の屋根に太陽光発電設備を設置し、省エネ設備を設置する。

農村漁村再エネ法を活用し、農地で太陽光発電事業を行い、ゼロカーボンを目指す。

焼却するごみを減らし、生ごみや落ち葉を焼却せずに堆肥化やバイオマス発電に利用する。

電気で走る自動運転バス（BRT）をつくば市中に整備する。

個人に対する太陽光発電や蓄電池への補助金を拡充する。

剪定した枝をチップにする機械を交流センターなどに設置する。

世界のトランジションタウンの取り組みを参考にする。

災害時に利用できる電源として、ソーラーパネルと電池を公共施設に備える。

小水力発電をつくば市内で実施できないか検討する。

6) その他のアイデア（8件）

つくば市が車社会からの脱却を進め、自転車や電動キックボード等の新たなモビリティサービスの導入促進を図る

市民の日々の生活とゴミ処理を結びつけ、意識づけを行う

学校で使う学用品について、使い捨てのものを減らし、リペア作業等を行う

昨年度つくば市で実施した「気候みらい会議」でまとめた提言を活用する

7) 質問など（0件）

以上